

ルチアめる

2024年『年頭所感』

精神科地域包括ケアシステムの 充実に向けた一年に



昼食前の嚥下体操

重度認知症患者デイケア 菖蒲 純平 係長

- 「光」を後世までつなぎ続ける病院を目指す～若手管理者座談会～
- 子どもの“注目”を望ましい行動へ～トークンエコノミー法～
- 聖ルチア病院のプロフェッショナル／精神科急性期病棟



社会医療法人 聖ルチア会 聖ルチア病院
理事長 院長 大治 太郎

専門性の高い 精神科医療の確立による地域貢献

近年の精神科医療は、できるだけ入院期間を短くし、患者さんの在宅復帰や社会復帰を促す方向性です。当院は72年前に開設し、1983年以降は、すべての病棟の入口に鍵を掛けない開放病棟で治療し、患者さんの人権を尊重してきました。当院が理念や基本方針に「人権を尊重し、患者様一人ひとりのために、地域の医療機関と連携して求められる医療ニーズにこたえる」と掲げ、実践してきたことが、患者さんに対する共通の認識として職員に定着してきたと喜びを感じています。

入院期間を短くすれば、在宅復帰や社会復帰が実現

2024年
年頭所感

精神科地域 包括ケアシステムの充実に向けた1年に



新年おめでとうございます

旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました

本年もどうぞよろしくお願いたします

するわけではありません。当院は2020年から、「統合失調症」「うつ病」「認知症」「児童思春期疾患」「依存症」の5つの疾患について、専門性の高い医療の確立を目指し取り組みを開始しました。多職種によるチームアプローチで、専門的な治療やリハビリテーションの成果が表れています。

21年に児童思春期病棟を開設。23年に精神科急性期治療病棟を増設し、いずれの入院希望者も増加しています。このように入院環境を整備し、ご家族だけの支援が難しい患者さんを積極的に対応する体制を整えて、地域に貢献できるよう努めています。

社会復帰、在宅復帰支援の拠点となる デイケア新棟を開設

入院治療環境を整備する一方で、患者さんの在宅復帰、社会復帰の支援にも力を注いでいます。24年夏には、デイケア新棟が完成し、25年春には併設する体育館が完成します。新しい施設は、1階に重度認知症患者デイケア、2階に精神科デイケアと依存症デイケア、3階に児童思春期デイケアを配置し、各疾患に合ったプログラムを提供します。

重度認知症患者デイケアは、これまでと同様に音楽療法や運動を取り入れます。一般的なデイサービスは女性利用者が多いため、男性は馴染みにくいプログラムが多いとも聞きます。当デイケアのプログラムは、たとえば勝敗がはっきりし、ゲーム性が高いものを取り入れるなどの工夫をすることで個別性に対応しているので、男性利用者にも好評です。また今後は体を動かし、利用者が生き生きできるプログラムをさらに追加していく計画です。

依存症デイケアは、デイナイトケアや断酒会の集いも行い、患者さんやご家族が困ったときの拠りどころとなるよ



▲2025年春に完成予定の体育館を備えたデイケア新棟予想図

うな施設にする計画です。欧米では、断酒会は自助グループとして取り組むことが主流です。当デイケアもいずれは、施設をお貸しし、自助グループを見守るような立場になっていくことを目指しています。

児童思春期デイケアは、通ってくる子どもたちの幅広い学年や年齢層に応じたバリエーション豊かなプログラムが必要だと考えています。子どもたちがデイケアを利用する目的は、「学校に戻るための練習」「生活支援の場」「行動障害があり家にいるのが困難」など、さまざまです。年齢や目標が違くと、求められるプログラムも異なります。子どもたちのさまざまな思いやご家族のニーズに応えるプログラムを開発していくべきだと考えています。2005年から、不登校の子どもがデイケアなどの通所施設を利用すると「出席扱い」となるという制度が始まりました。当デイケアが適用されるよう行政との連携も行います。

より良いサービスを提供するためには、人材が不可欠です。利用者と直接かかわる看護師などの専門職や送迎車の運転や設備のメンテナンスができる人材も欠かせません。定年を機に退職された方々のこれまでに培ってこられた経験とスキルを再び活かす機会をもつことで、当院はもちろん地域を支える一助にもなるでしょう。皆さんが参画してくれることを期待しています。

患者さんの自活、 雇用につながる支援の拡充

デイケア新築の先は、生活の場を提供することが目標です。デイケアと訪問看護で支え、必要な方にはグループホームで自活する能力を獲得していただく。その後は、賃貸住宅などに移り、福祉就労や一般企業の雇用につなげていただくという道筋を描いています。そのためにも、グループホーム、訪問看護などの在宅支援部門を

さらに充実させて、安心して社会生活を送れるようにサポートしていきたいと思ひます。

そのために当院は、住み慣れた町で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう精神科の地域包括ケアシステムを構築することを目標にしています。高齢者人口がピークを迎える前、2030年頃までには完成できるようにしたいですね。

患者さんと接する中で、予防医学や治療法の向上により、年齢を重ねても体は元気な人は増えていると感じます。今後は、認知機能がいかに健康でいられるかが、大きなポイントです。認知症の予防や対応の充実に向けて、医療や介護、行政、各機関との連携強化に取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いたします。



▲より良いサービスの提供のために人材育成に力を入れたい

Discussion 「光」を後世までつなぎ続ける病院を目指す

～若手管理者座談会～

聖ルチア病院は70年前の開業以来、心の病で困っている人の「光＝ルチア」になることを目指しています。それを実現するには、職員一人ひとりが病院の方向性や考えを理解し取り組むことが大切です。特にリーダーシップを発揮していく管理者の育成が欠かせません。今回は、2022年、23年に新しく管理者になった菖蒲係長、室屋係長、原副看護師長、大治係長と心構えや今後の目標について話し合いました。

司会は、
教育部長
(看護師)の
山口浩昭が
務めました



管理者育成による組織の活性化

山口 聖ルチア病院は、17年から管理者教育に力を入れています。院内外の管理者向けの研修を通じて、自律性の高い管理者を育成しています。2年前からは1年間を通して行う新任管理者研修も新たに始めました。“管理者が自ら考え、行動ができる管理者”を育成して組織の活性化を図っています。

管理者になって1～2年目の皆さんですが、これまでの仕事を振り返っていかがでしょうか。

菖蒲 入社して11年目です。地域医療連携室に配属されて病棟や外来、さらに在宅支援部門である精神科デイケアや重度認知症患者デイケアと多くの部門で勤務しました。職種ごとの仕事や役割がある程度理解できた中での今の役割です。多職種協働の部署管理を任されたのは、これまでの経験が活かしているように思います。重度認知症患者デイケアは、外来や入院の患者さま、ご家族、地域の施設、関係機関など、さまざまなお客さまと連携をとる必要があります。患者さまやご家族の生活まで考える精神保健福祉士の幅広い視点を取り入れてマネジメントを実施しています。

室屋 次女が4ヶ月の頃入社しました。子育てと仕事の両立が当院では実現出来そうと思ったからです。管理者という話を聞いた際は、今まで組織の仕事をほとんどしてこなかったため、正直驚きました。私はもともと、これくらいの時間があれ

目指す病院像 70年の歴史をこれからも守り、後世に伝える病院

自分が産まれる前から、理念、方針を先人が積み上げてくれた。後世に伝えていきたい。

係長 菖蒲 純平
所属 重度認知症患者デイケア すずらん
職種 精神保健福祉士
入職 2013年 **管理者** 2022年(2年目)



目指す病院像 **活気のある病院**
それぞれが自分の人生を大切にしながら活き活きと仕事ができる病院にしたい。

係長 室屋 有美
所属 作業療法課
職種 作業療法士
入職 2015年 **管理者** 2022年(2年目)



ば、この仕事を優先しようと時間のパズルをしながら、質と効率性を意識して仕事をします。管理者になってからは、よりその意識は高まりました。まだまだ慣れないこともありますが、周りのサポートで仕事と家庭の両立ができていますので、すごく感謝しています。

原 入社して現在6年目です。2023年3月に副看護師長になりました。看護部長に管理者になることを打診されたときは27歳のときで、夜勤明けでひと息ついているときに呼ばれて話を伺い、「間違いじゃないですか」と聞き返すほど驚いたのを記憶しています。まだ経験も浅く、20代の私が年上の方が多く中で、スタッフに依頼するようになると、どんな風に伝えたらいいのかわからないと悩みます。そのような中で私の強みは、20代の管理者なので、若いスタッフが話しやすいことだと思っています。年の離れた先輩に話しづらいことも、僕には話せるかもしれない。それをうまく吸い上げて、具体化し、行動につなげていけたらいいなと思っています。

大治 他の病院に勤務し、聖ルチア病院に入社して3年目で、管理者になったのは初めてです。以前に働いていた病院では、担当病棟での病棟薬剤業務がほとんどでした。当院では他部署と多くのやりとりをし、助けられていることが多いです。当院では薬剤師業務に加え、委員会や行事運営などマルチタスクを求められます。初めは慣れませんでした。頭を切り替えて考えられるようになり、自分の成長に繋がっています。また、職員に病院理念を浸透させる取り組みも、これまでの経験では考えたこともありませんでした。立場が変わるこ

とで組織全体を意識するようになり、自分の視野も広がります。

山口 理念、基本方針、行動指針を分かった上で考えて行動するっていうのは大事ですね。当院の大切な考え方がしっかり皆さんへ伝わっていると感じます。

部署、世代、地域への掛け橋としての役割

山口 これからの管理者として成長していく皆さんはどのような役割や責任を求められていると感じますか。

原 現場が一番近い副看護師長として、理念や組織の方向性を現場に落とし込み、行動につなげていくことが求められると思います。自分が一般職の時、上司に仕事の改善を提案し、改善につながったことがあり、その時に、この上司の下で働きたい、学びたいと思いました。そのような体験がスタッフの働きがいにつながると実感しています。先輩管理者の良い所を学んで実践していきたいと思っています。

室屋 私たちは1日のほとんどの時間を職場で過ごします。私のように子育て中やワークライフバランスを大切にしている職員も多くなります。そのような職員にとって自分自身の人生の中で1日の大半を過ごす職場が、少しでも充実したものになるために管理者として少しでも貢献していきたいです。職員満足度が上がることで組織力や患者満足度も高まっていくと思います。また当院にはリーダーのモデル像になる管理者の方が沢山おられます。それを吸収しつつ、私も自分の強みをさらに

目指す病院像 働きやすい病院

働きやすさは患者さまや地域に伝わり、患者さまの満足度にもつながる。

副看護師長 原 陵輔
所属 精神科急性期治療病棟
職種 看護師
入職 2018年 **管理者** 2023年(1年目)



目指す病院像 つなぐを大切にしている病院

院内、地域とのつながりを充実させて患者さまや、家族を支えていきたい。

副薬局長 大治 万喜子
所属 薬剤課
職種 薬剤師
入職 2020年 **管理者** 2023年(1年目)



活かすことで成長していければと思います。

大治 病棟をはじめとする各部署とのつながりを積極的に持つことが必要だと思っています。業務上の問題点に気づいて、さらに良くするために改善を図りたいことを申し出ると、どの部署も快く改善に協力してくれます。積極的に他部門と連携することで、仕組みを変えていける環境があると感じました。また、管理者になって薬剤師というより聖ルチア病院の職員という意識がより強くなりました。部署だけでなく、当院全体や地域を良くする、そんな視点も必要だと思っています。

菖蒲 重度認知症患者デイケアは、病院の1つの部署ですが、地域の中の社会福祉資源の一つという立ち位置でもあります。久留米市には認知症デイケアは2病院しかなく、中心部では当院のみです。認知症高齢者に対する通所型の医療サービスという特徴的な立場として、地域の中で何が求められているのか、通所型の介護サービスでは対応できなくて、医療サービスだからこそ応えられることがあると思います。ご家族や地域の方と関わる中でそのニーズを感じ取り、自部署の特徴を活かして応えていくということが、管理者には求められると思います。

山口 お話をうかがい、患者さまや地域を大切にする創業時の思いが連綿と続いていると実感しました。これまで地域でお困りの患者さま、ご家族、関係機関の「光」「目印」になろうと、先輩方が紡いできた聖ルチア病院です。私たちも後世につなげるように管理者として成長し、より良い聖ルチア病院と一緒に目指していきましょう。

発達障害や情緒的な成長がゆっくりの子どもたち、およびその家族、保育園、学校の先生にとって、日常生活や教育で、応用行動分析というアプローチが役立つことがあります。その一つであり、発達障害の子ども向けに発展させられた「トークンエコノミー法」は、当院に入院生活をする子供たちにも活用しています。今回は子育てや教育現場でも活用できる行動療法のひとつ「トークンエコノミー法」をご紹介します。

児童思春期病棟
副看護師長
廣松 愛

今回のテーマ

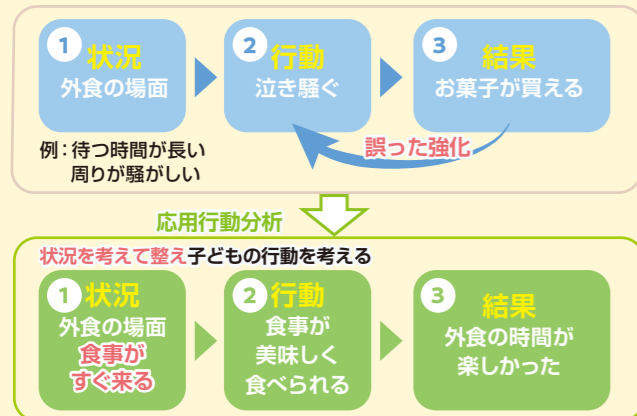
子どもの“注目”を望ましい行動へ ～トークンエコノミー法～



子どもの“注目して欲しい”に応える

子どもたちは自分に“注目して欲しい”気持ちを持っています。行動を変えるためにはこの“注目して欲しい”気持ちを望ましい行動につなげることがポイントになります。応用行動分析では「状況-行動-結果」において、「行動」が起きる前の「状況」に着目します。行動する前の状況を整えることで、問題行動が起きないようにします。そのためには子どもの状況を考え理解してあげることが重要です。子どもたちの“注目して欲しい”気持ちに応える（状況を理解する）ことで望ましい行動が増やしていきます。

■応用行動分析のイメージ例



トークンエコノミー法

トークンとは子どもたちが望ましい行動を実行した際にもらえるご褒美のことで、スタンプやコインなどで行動の実行できたことを見える化します。トークンだけが目的ではなく、それを介したプラスのやり取りが重要です。

基本原則として、トークンエコノミー法は、子どもたちが望ましい行動を奨励し、ポジティブな成果を促進するために以下の手法を行います。



▲児童とコミュニケーションをとっている様子

1 目標設定

何を達成したいかを考え、それを達成するための目標を一緒に設定する。（一方的に決めない）。いきなり高望みをせず、スモールステップがポイントです。子どもの特性に合わせて、“すぐに・短く・興味を持たせる”ための工夫しましょう。

〇〇ちゃんトークン表

日	15時以降の活動	16時以降の活動	17時以降の活動
10/4 (月)			
10/5 (火)			
10/6 (水)			
10/7 (木)			
10/8 (金)			
10/9 (土)			
10/10 (日)			

〇が15個で一緒にアイスを食べに行きましょう!
〇が10個で一緒にアイスを食べに行きましょう!

▲入院児童と看護師が作成したトークン表。児童と一緒に考えて、取り組んでいく中で、信頼を深めています。

2 ルールと報酬の計画

トークンをもらう（使う）ためのルールやご褒美の仕組みを考える。分かりやすいルールと子どものモチベーションが高まるご褒美の設定を子どもと一緒に考えることが重要です。

3 ほめることと楽しいこと

トークンをもらうために限らず、望ましい行動をしたとき、すぐにほめて、楽しい経験を共有する。トークンが貯まるプロセスやご褒美を子どもと一緒に楽しむことを大切にしましょう。

トークンエコノミー法のもたらす効果

トークンエコノミー法は、発達障害の子どもたちをはじめ、なかなか望ましい行動が難しい子どもたちにとって継続的に取り組むことで効果を発揮します。具体的には、日々の生活を整理し、何が次に起こるかを予測しやすくすることです。これにより、子どもたちやご家族は、スムーズに日常生活を送ることができるので、ストレスを減らすことにつながります。子どもたちは成功体験することでモチベーションを高め、ソーシャルスキルを向上させるのにも役立ちます。



▲児童思春期への取り組みを紹介



vol.2

株式会社スローライフ

代表取締役 須山 多佳人 さん

聖ルチア病院は法人外の多くの施設と連携し、患者様を支えています。今回は株式会社スローライフをご紹介します。スローライフは、一般企業で働くことに難しさを感じる方が利用できる「就労継続支援A型事業所」です。精神や知的、身体などの障害を持つ18歳から65歳未満の方が対象になります。



したいと思ったからです。

開設当初は、スタッフの育成を大切にしました。スタッフは介護業界から来た人、未経験の人がほとんどで、利用者に対し「してあげる」という姿勢が強く、社会復帰のための支援になっていなかったためです。A型事業所は、一般企業と同様に雇用契約を結び、仕事をする場所です。スタッフは、手を出さず、見守りながら支えることが大切です。

スローライフの作業所内の仕事は、箱作りや水草の栽培、シール張りなどで、作業所外では、施設清掃や食品工場勤務などがあります。雇用面接の際に、障害の程度などを配慮し、どのような業務に就いてもらうか判断しています。

スローライフは、「仕事ができる人」ではなく、「周囲の人に気を配ったり、コミュニケーションをとれる人」を重視しています。A型事業所は、利用者が一般企業の仕事に就けるよう訓練、指導する場所です。企業が求めるのは、あいさつなどの基本的なコミュニケーションがとれ、共に働く人と助けたり、助けられたりできる人でしょう。スローライフで伝えるのは、コミュニケーションと協調性の重要性です。スローライフ卒業生の中には、正規雇用していただき、結婚し子育て中の方も

います。利用者にとっては、やる気のできごとになりました。聖ルチア病院さんとは2023年5月から、週3回の午前中、院内の清掃でお世話になっています。今後仕事を通して信頼してもらい、最終的に雇用につながるとありがたいと思います。シート交換後の処理や車いすの清掃やメンテナンス、送迎者の洗車など、スローライフでできる仕事は、まだまだたくさんあると思います。



聖ルチア病院さんをはじめ、これまで多くの理解ある企業に助けていただきました。障害者の就職は、まだまだ壁があります。「障害者は仕事ができない」と決めつけることなく、仕事を体験させて、その上で判断してほしいと思います。当社も11年目に入りますので、これまで以上に頑張っていきたいと思います。



施設情報



株式会社スローライフ
〒830-0062 久留米市荒木町
白口2324-3 古賀第2ビル105
TEL:0942-65-6475

聖ルチア病院で院内清掃を担当しています



生活相談員
辻美智子さん

利用者とともに、聖ルチア病院の院内清掃でお世話になっています。職員の皆さんがきちんと挨拶をして下さるなど、良くしていただいています。清掃の設備も充実しており、利用者もスムーズに仕事ができます。

私は長年、外科系の看護師として勤務していました。障害がある方の支援は、まだまだ勉強の最中です。利用者の支援、清掃業務の効率など、課題はたくさんありますが、少しでもきれいにしようという気持ちをもって、利用者と一緒に取り組んでいます。

2023年4月、当院の精神科急性期治療病棟は大きな変革を遂げ、二病棟の108床に増床しました。精神一般病棟から精神科急性期治療病棟への転換が行われ、依存症、知的障害、発達障害、認知症、気分障害、感情障害など、幅広い疾患を抱える急性期の患者さまを受け入れる場となりました。子どもから高齢者まで、様々な世代にわたるサポートを行っています。

特に依存症治療に焦点を当てると、依存症治療チームメンバーの医師や看護師が病棟に所属し、専門的な治療を提供しています。また臨床心理士や精神保健福祉士など、多岐にわたる職種が協働し、患者さまひとり一人に合った治療を行っています。

依存症の患者さまは真面目で孤独な傾向がありますが、その中で大切にしている寄り添いすぎず、患者様と治療者の関係性のバランスを保つことです。距離感を意識し、優しさの中にも厳しさを持ちながら、患者さまを尊重する気持ちを忘れないように心掛けています。最終的な目標は、患者さまが自らの意思で行動し、安定した生活ができるようにサポートすることです。

依存症は誰でもなりうる病気にも関わらず、認知度が低く必要な方に治療が届いていないと感じます。早期に

治療に繋げるためには、地域での啓蒙活動や関係機関との連携が不可欠です。将来的には、関係機関との連携をより一層深め、患者さまや近くで支えるご家族にとってサ



ポートが充実した環境を築いていきたいと考えています。

◀スタッフルームでは多職種がコミュニケーションをとっています

連携先の皆さまへのメッセージ

早期発見、早期対応のために情報交換や勉強会を定期的に設けていけたらと思います。ぜひご連絡ください。

精神科急性期治療病棟(2病棟) 看護師長 森 久美子



キラリ
pickup
Kirari No.1
氏名: 池田 美羽
所属: 事務部
趣味: 絵を描くこと



4月に事務職で入職しました。私が日頃から心掛けているのは、仕事の一つ一つを大切にすることです。患者さまやご家族の対応から業務のすべてにおいて、責任を持って行動していきたいです。



社会医療法人 聖ルチア会
聖ルチア病院
St. Lucia's Hospital

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町1012
TEL0942-33-1581 (代表)
FAX 0942-33-1586

関連施設

- ・精神科デイケア、デイナイトケア、ショートケア
- ・重度認知症患者デイケア すずらん
- ・訪問看護ステーション クローバー
- ・訪問看護ステーション クローバー おおき
- ・グループホーム ルピナス

